

唐

薩戒記

十四

庫文閣内			
一十二函	一六架	八八〇九號	和書類

内閣文庫		
番號	和	8809
冊數	20 (	14)
函號	162	212



元書院  
圖書記

隆戒序記

永享四年十二月九日甲午天晴

後聞今日有宣下事左大臣源朝臣為淳和將

兩院別當又為氏長者又被聽牛車權大納

言房平任左近大將  
內大臣  
拜退習上卿職事亦可

尋江

今夜左大臣殿將任拜賀并着陣又有序元服

申奉幣日時定左相府令奉行  
例云  
給玉田  
創云  
鹿

直書  
文庫

圖書記

從云卿

前驅一人

内大臣

東府長共

左大将

房平前驅三人

万里小路大納言

時房  
前驅一人

中御門大納言

後補

按察大納言

公保

西園寺大納言

公名

洞院大納言

實基

藤中納言

忠秀

葉室中納言

宗豊

石鳥井中納言

雅世

日野中納言

兼卿前驅  
一人車後少

四條宰相

隆安

三位中将

持冬前驅一人  
在車前少

新宰相中少

實雅車府侍一人  
在車後少

殿上人

左中将為元朝臣

少納言為清朝臣

頭左大弁志長朝臣

左中将持康朝臣

少納言益長朝臣

右中弁幸房

藏人控右少弁長淳

右少將資益

前驅二人

康任朝臣  
經泰

自余如例

・御拜賀并御着陣序次第

當日家司洗日時甚文

次御装束を着給

次御参内此後例のと

入四足門床子座の前を絶給番長一人 上官 相長申

上首より對て御搦を右門前より進立給

次藏人頭お建時御気色

頭由入て又出遊て氣色申て後御搦

次沛拜舞

次各名門代を入給て小板敷を果給

沛皆揃

殿上代切臺盤前浅著座

沛揃  
如常

至殿内沛袂をちをく

次藏人頭尺由を告申

次揃て座を起て殿上の上戸并簀子を掲て

當の間をりて内座の着給

沛揃ありたの沛子  
をくつゝのく袂を

掲て座を起給本給を

經て殿上の小板敷を降て沛着を着給

各名門を由給

但今度内く沛着へ沛着あり

次沛着陣儀あり

真後殿上を降給て各名門を由て更小板

子の前を經給沛揃先のと

門外官人二時を同給

其初  
時四

次宣仁門をりて宣陽殿着給

其儀正陽殿北側の一間の程より西より所構あり  
又正陽殿北側の一間の程より西より所構あり  
南の方を願て吉事を思出  
給

小時ありて座を起給所構あり所構を淨く  
始末下りて所構を著して左より所構を  
て所構を起給して北側の一間の程より西より所構あり

の端より着給東二枚の所構を起給して

を脱て右膝を起して所構を起給して  
て南へ所構を起給して北側の一間の程より西より所構あり  
ら左の間の間に所構を起して所構を起給して  
て所構を起給して北側の一間の程より西より所構あり

次召官人 二音

次官人小庭 二音

所云 軼志を

次次清書を

申

此間公卿祭着

次大并横切清書の着て清目をさうけて起す

次大并横切清書の着て清目をさうけて起す

願面

次史申文を杖に挿し奉りて杖を挿し

次置笏右左右の清手少し申文を採取給て

清手少し申文を採取給て

左清のりて申文を抄入たる清のりて礼

紙を抄く同清のりて礼束の端此上下

を引張て同清のりて文一通を一通り礼

紙のりてハワリて又礼紙の團下上を丸

清のりて引張てたるりて文一通を取く

清のりて引張てたるりて文一通を取く

清のりて引張てたるりて文一通を取く

清のりて引張てたるりて文一通を取く

料を取ていさふくり物迄は清徳年同前  
の玉迄は清のりく文一通をおきて礼紙  
を引換へある持て礼紙のり方と二寸半  
内振一引折て縦さまふ板敷の端へ押入り  
信史初々次文一通をたすのり取て端を  
少清説の中へ巻く 左清のりく 文をとり 史子信史  
初て信申清目あり 又一通を取て史子信  
史初又一通を信史のりを信申清目あり

封筒清笈を持信

次職事職事系へ書書を下申 二折して五信へ  
清徳

其後清笈をたす書て文を五信へ申文此  
くく礼紙を引て清徳のり持てたれ  
方より押合前ふ持向し職事 二寸目左  
此市帳に押入る清徳のり巻く礼紙を  
かて前より送給 職事 退下



次官人を召て弁を乞

次辨職之条

次昔書を弁上下

弁供申之

次大弁起座

次諸卿起座

次彼作殿上別當事

其係藏人頭職之条之可為藏人可為當之

田申之 清

次陣の奥に座す 方 直給て構て 清 起給て

出宣仁川弓場代す 清 清事あり

介白申次 清 堂上より及て 清 座す 清

清 清 退坐か 清 門留 清 事あり

清

六位外記史官掌召使に相授申役取の

南の程より外記史手伏の時 清 檜扇を

神弓を打つる。係かへ是の事。尚書省に給ふ。

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

永享四年八月廿八日室町殿 内大臣 令轉左

大臣給 右近大将 左大将信宗弼任内大臣蒞

會後如例内弁洞院大納言実熙弼以下公以

九人奉行頭左中将隆遠朝臣也翌日大外記

師世朝臣持参闻書被下恩禄 破金一畧 諸家

有糸賀 西殿

同年十二月九日天皇御元服由奉幣日時定

上卿左大臣殿御参内有御拜賀儀是日令補

將學院淳和院等別當給為源氏長者同牛車  
車被宣下侍奉內以前兩房持參一宣旨成刻  
室所殿南面惣門侍出北小路車行万里小路  
南行鷹司西行東洞院北行自左衛門陣侍奉  
內所過固如例在之路次扈從云卿殿上人  
各乘車地下前馳侍府侍侍隨亦上階亦各騎  
馬侍奉內時番頭八人取松明左右前行諸大  
夫二人同取松明候侍若先是九大弁宰相清

房御右大弁忠長朝臣右中弁韋房左女弁明  
豐權右女弁長淳少納言為清朝臣同益長朝

臣九大史周枝者祢同為諸宿祢中大外記師

卿朝臣弓勢師世朝臣等著床子侍六位外記

史床子座南昭壇下程候九府令經床子座給

少納言弁以下各平伏兩大弁蹲居左府於床

子座一間立直有侍揖兩大弁令平伏為善揖

次於弓場代侍奏慶頭中将隆遠朝臣勤申次

沛拜舞之後沛堂上昂山下殿又又令經床子  
沛給大弁以下平伏入敷政門絕壇上南行着  
沛宣陽殿昇北東一間長押西行文折南行着  
沛南東一間西壁下面東昂起沛升經本路着沛  
仗座直端為沛着陣儀先是尤大弁相公右中  
弁辛房直周枝宿祿升着床子座有申文右大  
史負職申文拂文杖進敷政門代也後周枝先  
是尤大弁起床子參着伏摸切座次周枝捧文

杖奉進執覽申文沛覽之儀如例周枝退去藏  
人尤大弁明豐覽藏入方吉書沛晚之後召右  
中弁辛房被下之  
次有伊勢日時定左府不令起座給昂有行事  
次中儀訖頭羽林系執可令補殿上別當給  
由作勅詰左府奉宣令起座給亦於弓場代  
令奏慶給令補殿上別當御退出於左衛門  
陣外有留沛前權少外託康富右大史負職官

掌成茂召使理繩等後之次清系仙洞有清拜  
之儀于時子一点也抑今夜扮政太相国 清天冠  
清系内軒廊邊清佇立有清見物龙府清進退  
清輔仇故欽日野中納言小庭外田所 清眼路  
程候自茲清用之儀不應清之左云申汝太傳  
奏万里小路大納言時房弼奉行家司以右大  
弁忠長朝臣也弁女納言兩局等各候床子座  
兼日被催之載折紙傳奏被伺申任清点被催

之云

御拜賀

扈從公卿

内大臣

龙大将

万里小路大納言

中清門大納言

按察大納言

西園寺大納言

洞院大納言

藤中納言

葉室中納言

丸鳥井中納言

日野中納言

四条宰相

三位中将

三条宰相中将殿

殿上人

為清朝臣

為之朝臣

持康朝臣

益長朝臣

幸房

長淳

資益

忠長

地下前駟

康任朝臣

経康

侍隨身

府生下毛野武春

番長秦兼枝

近衛

一座 秦兼任

一座下毛野武豊

三座 秦久枝

四座 下毛野武親

五座 同 同武冬

六座 秦久倫

侍身固

土侍門三位

此外

衛府侍六人

帶刀六人



